

大豆だより

第2号

令和7年6月24日発行
西村山農業技術普及課
TEL: 0237-86-8301

中耕・培土を適期に行い、生育量を確保！

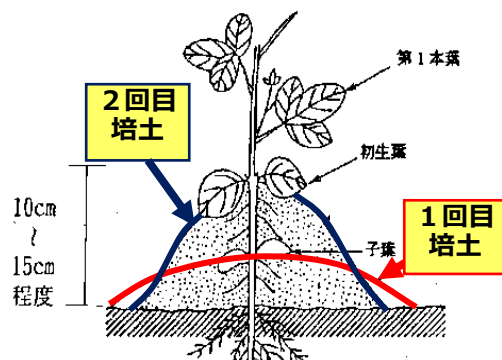
1 中耕・培土

【1回目培土のポイント】

- ・ **3葉期**に、子葉節が隠れる高さまで行いましょう。
- ・ 雑草が見え始めている圃場は、早めに行いましょう。

【2回目培土のポイント】

- ・ **6～7葉期**に、初生葉節が隠れる高さ（15 cm程度）まで行いましょう。
- ・ 培土が高すぎると、収穫時に土が混入しやすく、汚損粒発生の原因になります。
- ・ 遅くとも開花の1週間前までに終了します。

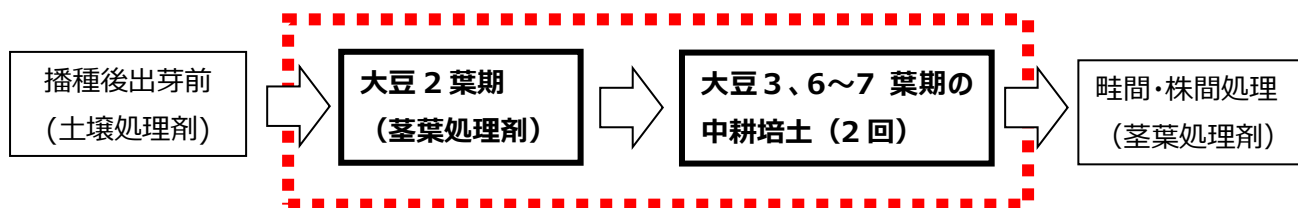


2 追肥

- ・ **6～7葉期の中耕・培土時**に、被覆尿素（LP コート 70）を窒素成分で 7.5kg/10a 施肥しましょう。着莢数及び百粒重が増加し、収量向上の効果が期待できます。
- ・ 地力の高低に応じて施用量を調整しましょう。硫安は過繁茂になりやすく、根粒活性も低下するので NG!!

3 帰化アサガオ類対策 — 茎葉処理剤の散布と中耕・培土の体系で対応 —

初期防除・大豆初期生育の確保が決め手！



- ・ 管内の圃場で帰化アサガオ類が確認されています。
- ・ 帰化アサガオ類がつる化し、大豆に絡みつく前に体系防除を行うとともに、補完的に手取りで対応しましょう。早期対策で拡大させないことが重要です！



STOP 農作業事故！ 熱中症にも要注意！
声を掛け合い、農作業事故を防止しましょう！